

第 36 回霧ヶ峰自然環境保全協議会 局長あいさつ

諏訪地域振興局長
小山 靖

霧ヶ峰自然環境保全協議会の皆さまには、日ごろから霧ヶ峰の自然環境保全にご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、諏訪地域は諏訪湖や八ヶ岳が育む豊かな自然を有しており、とりわけ霧ヶ峰は、国内でも有数の美しい草原景観と、天然記念物である3つの高層湿原を有する貴重な場所です。

しかし、近年は、霧ヶ峰においても外来植物の侵入が見られるようになり、生態系や景観への影響が懸念されております。

そのため、霧ヶ峰に関わる団体が一堂に会して、霧ヶ峰の保護と利用のあり方について総合的に協議・検討し、目指すべき霧ヶ峰の姿を描き、実現することを目的に、平成19年に本協議会が設立されました。

平成25年度には霧ヶ峰自然保全再生実施計画を策定し、平成26年度に第一次の個別作業の5か年の計画、そして、令和を迎え第二次の計画がスタートいたしました。

今回、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本協議会が書面での開催となったことは、協議会を構成する皆さまが直接意見を交換する貴重な場であったことを考えると、致し方ないこととはいえ、残念でなりません。

このような状況ではありますが、外来種や優占種は人間の事情に関係なく影響してまいります。これらの植物の駆除や刈取りにあたり、今年度は一般ボランティアの方々にご協力いただけない状況となってしまいましたが、引き続き、取組を進めてまいります。

また、ニッコウキスゲなどの高山植物をニホンジカから守るため、皆さまのご協力により電気柵の設置を行い、多くの方々にニッコウキスゲの咲く素晴らしい霧ヶ峰を楽しんでいただいております。

県では、全国に誇る霧ヶ峰の草原景観の保全・再生を図るとともに、霧ヶ峰の魅力も活かした地域づくりの推進に取り組んでまいりますのでよろしく願いいたします。

終わりになりますが、皆さまの益々のご活躍と各団体の発展を祈念し、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

第 36 回霧ヶ峰自然環境保全協議会 座長あいさつ

霧ヶ峰自然環境保全協議会
座長 土田 勝義

記録的な暖冬となり、昨年とは打って変わって春の訪れが早まった霧ヶ峰では、動植物が活発に動き出す季節が始まっています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大小さまざまな会議・イベントが中止され、経済活動も大きく減退し、我々人間にとっては春の訪れを実感する余裕もないまま、すでに季節は初夏を迎えようとしております。

本協議会もその影響を受け、書面での開催となってしまいました。霧ヶ峰に関わる多くの皆さまが、霧ヶ峰の保全・再生のために一堂に会して意見を交わす貴重な機会が失われたことについて、非常に残念に思っております。

そんな中で迎えた令和2年度ですが、「霧ヶ峰自然保全再生実施計画」の個別作業も7年目を迎え、6月6日に実施した池のくるみでのハルザキヤマガラシの駆除を皮切りに、9月8日のニッコウザサ刈取・搬出まで作業が続きます。

例年とは異なり、一般ボランティアの募集を行うことができない状況となりましたが、これまでの作業の効果を引き継ぎ、蓄積した経験や知見を踏まえて、あらためてしっかりと取り組んでまいりますので、引き続き、皆さまのご協力をお願いします。

今回の協議会では、次第のとおり4つの報告事項を資料でお送りいたしますので、内容等についてご意見をお寄せください。また、その他霧ヶ峰の保全・再生に関すること全般についても、忌憚のないご意見をいただければと思います。

皆さまからのご意見とともに、引き続き、霧ヶ峰の保全・再生についてより良い方向へ進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。